

本年度の総題

『義公三百年祭

烈公生誕二百年の年を迎えて』について

水戸史学会会長 名越時正

本年、平成十二年は奇しくも義公薨じて三百年、烈公生誕して二百年という特筆すべき年に当たります。恐らくは義公（光圀公）の偉大なる精神が年代を超えて発現されたのが烈公（斉昭公）であったと思われれます。

それは義公の厚恩に浴した契冲が、荷田春満・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤という国学の四大人を生んだように、学問精神の伝承によるものでありますと同時に、水戸家の子孫伝承の見事さを示すものでありましょう。しかもそれが丁度百年という間隔を置いて実現しましたことは、人智を越えた奇蹟、即ち神意によるものと申し得ることはありませんか。烈公の持つて生まれた素質才能は、その時代に対応する所もありましたが、義公の子孫たるに適しいものがありました。従いまして水戸ではかねてから「義烈両公」と並べ称して尊んだのであります。

そこで今年の水戸学講座は、その義烈両公の、藩主として藩内外に発揮された業績を研究して発表する最も良い機会であると思ひ、総題とした次第でございます。